

## 1. 総評

**(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**

明るく素直な生徒が多く、落ち着いた環境で日々の学習や生活に励んでいる。運動会、文化祭などの学校行事や部活動にも一生懸命取り組み、立派な成果をおさめている。学校に対する保護者や地域の期待はとても高く、協力を惜しまない。さらなる学力の向上や不登校生徒の解消が学校全体の主な課題である。

**(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要****重点的な取組事項－1 学力向上**

- 落ち着いた学習環境
- 放課後補充教室
- 長期休業中の学習教室と土曜学習講座
- 家庭学習の充実
- 授業改善と若手教員の育成

**重点的な取組事項－2 関係小学校や家庭・地域との連携**

- 小中連携
- 家庭との連携
- 地域との連携・協力

**重点的な取組事項－3 生徒の健全育成**

- 基本的な生活習慣の徹底
- 道徳教育の推進
- いじめ、不登校への対策

**(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性****重点的な取組事項－1 学力向上****【成果】**

成果目標の達成基準には届かなかったものの、生徒の学習に関するアンケートで「学校での授業はわかりますか」への肯定的な回答が83.8%であり、昨年度から3.4%上昇している。また都学力調査の数学ではA問題、B問題、全体ですべて都平均正答率をそれぞれ5.8ポイント、4.5ポイント、5.4ポイント上回った。これは以下の理由によると考える。

- 教室環境の整備、あいさつやチャイム着席などの学習規律を徹底することにより、落ち着いて学習できる環境を整えた。
- 授業のはじめにねらいを示し、最後に振り返りを行うことによって、何ができるようにさせるのかを、明確にしている。
- 校内研究授業や他教員の授業参観の推進、国語、数学、英語の教科指導専門員による各教員への指導、管理職による授業観察をとおして、教員が新学習指導要領で求められている学力について理解し、考えさせる場面や話し合わせる場面を設定し、授業改善に努めた。
- 放課後補充教室を数学、英語を中心に、週3回実施し、全教員で指導に当たることで、分からないことを分からないままにしない雰囲気づくり、自ら進んで学ぶ雰囲気ができた。

**【課題及び解決の方向性】**

「授業はわかる」生徒が83.8%であるにもかかわらず、「勉強がすき」と答えた生徒は42.6%にとどまっている。さらに「家庭学習をするとき、何をどのように勉強すればよいかわかりますか」への否定的回答は34.7%である。このことを解決するために以下のことに取り組む。

- 「授業がわかる」だけでなく、日常生活に結びついた学習や「わかった」「そうなんだ」と学習の喜びを感じられる授業への改善を工夫する。
- 「家庭学習ガイドブック」を活用し、家庭学習の行い方を計画的・継続的に指導する。そして家庭学習とは、自分にとって必要な学習を見極め、取り組むことであることを理解させ、行動に移せる力を身に付けさせる。

**重点的な取組事項－2 関係小学校や家庭・地域との連携****【成果】**

保護者・地域の方による学校評価アンケートで、「学校は保護者・地域と連携し、教育活動に取り組んでいる」への肯定的回答が92.2%であった。これは以下の理由による考えられる。

- 学校だより、学年だより、保健だよりやホームページをとおして学校の情報を細かく発信したことにより、学校が今、どのような教育方針で教育活動を行っているのか、生徒がどのような活動をしているのかを理解していただいた。特に地域の方からは、学校だよりの記事を読んで、がんばっている様子がよくわかったとの声を複数いただいた。

- 年3回の三者面談の実施により、各家庭との課題の共有ができています。さらに担任を中心とした学年の教員が、必要に応じて家庭と密に連絡をとることで、保護者と学校が協力して生徒の健全育成に取り組めた。
- 開かれた学校づくり協議会を中心とした地域の方のご協力により、生徒がボランティア活動に取り組むことができ、生徒に直接ご指導いただくことをとおして、生徒の実態をご理解いただけた。
- 学校公開週間、道徳授業地区公開講座等のご案内を地域の皆様にもお届けすることによって、来校していただき、授業等をご覧いただくことができた。

【課題及び解決の方向性】

小中連携は分科会を決めて授業見学、協議会をすることによって、研究が進んだが、区で示している小中連携活動の目的を十分に達成できていないとは言えない。今年度末の研修会で目的を再確認し、来年度の計画に活かす。

- 本校は母体となる2校の小学校からの入学生が学年の90%近くを占める。小中連携活動を十分に行うことで、中学生になってからの学習、生活両面での戸惑いがより少なくなることは間違いない。分科会での研究をより進め、小中連携の接続について理解を一層深める必要がある。
- 地域でのボランティア活動には、部活動ごとに参加することが多く、生徒の掌握等については実施しやすかった。しかし本来のボランティア活動の意味から考えると、個々の生徒が自主的、計画的に活動の参加できる体制づくりが必要である。そのため、現行の方法に合わせて、全校生徒への募集を行い、生徒の意識変革に努めていく。

### 重点的な取組事項－3 生徒の健全育成

【成果】

学校評価アンケートの関連項目で高い評価を得ることができた。また地域の方々からも「学校が落ち着いている。」「授業に意欲的に取り組んでいる。」とのお褒めの言葉をいただくことが多い。これは以下の理由によると考える。

- 生徒の生活委員が朝の挨拶運動やチャイム着席週間等の取組を行い、生徒の意識の啓発に努めている。それと同時に、教員が朝、校門で挨拶をしながら登校指導を行うと共に、それぞれの学年のフロアで朝学習に取り組ませる指導を行ったり、休み時間には廊下の巡回を欠かさず行ったりしていることにより、生徒の中に、時間を守って行動しようとする気持ちが育まれている。
- いじめについては、年3回のアンケート調査のほか、学校独自に行っている「心の声アンケート」により、生徒の状態を掌握している。また朝、出席をとったときに登校していない生徒の家庭に必ず8:40までに連絡を入れることにより、心の変化を迅速に掌握するようにしている。
- いじめ、不登校や特別な支援を必要とする生徒について、週1回行っている校内委員会で、各生徒への対応を検討することで、担任の経験等に関わりなく、組織的に指導することができている。さらに関係諸機関との連携もSSWを活用することで円滑にできるようになってきている。

【課題及び解決の方向性】

道徳教育の推進を目標の一つに掲げ、各学年で指導案を検討しながら授業に取り組み、評価についても研修をしてきたが、来年度からの教科化に向けて、教員全員が新学習指導要領の趣旨を十分に理解するにはいたらなかった。今後、道徳教育推進教師を中心に、まず教科書の読み込みと発問、評価等について研修をさらに深める必要がある。

### (4) 保護者や地域へのメッセージ

中学校の3年間は、生徒たちが夢や希望をかなえるスタートラインに立つ準備をする時期です。ここで本校では、「様々なことに挑戦し、能力を伸ばそう」「思いやりの心もち、自分も周囲の人も大切にしよう」ということに重点をおいて教育活動を進めております。そのために、日々の学びの中で、様々なことに挑戦し、自らの才能に気付き、能力を伸ばせる場を提供しています。それと共に、互いの違いを認め、良さを学び合い、思いやりの心をもって接することで友情を育み、互いに高め合う心を育成しています。

また基礎的な学力を着実に身に付けさせることは、教育活動の最も重要なことからの一つであると考え、落ちついた学習環境を確保し、わかる授業を行うための工夫に日々取り組んでいます。特に今年度は、新学習指導要領の考え方にに基づき、授業中に考える場面、話し合う場面、発表する場面を意図的・計画的に設定し、「主体的・対話的で深い学び」を進めています。その結果、生徒たちが8割以上の生徒が「学校の授業はわかる」と実感しています。

さらに運動会、文化祭などの学校行事は生徒の実行委員会が中心となって運営し、成果をあげています。一人ひとりの生徒が、学校行事を体験するたびに、友情を育み、達成感を感じるだけでなく、自分の挑戦課題を決めて臨むことで、大きく成長しています。

最後に、保護者の皆様、地域の皆様からは、日頃から絶大なご支援をいただいております。このご期待に応えるためにも、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでまいりますので、今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

### 重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上	区学力調査 通過率 国語 75% 数学 60% 英語 50%	区学力調査 通過率 国語 60.9% 数学 56.7% 英語 44.0%	通過率に限ると、目標は達成できなかったが、授業アンケートをはじめとした資料からは着実に基礎学力が定着していることが読み取れる。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

### 重点的な取組事項－2 関係小学校や家庭・地域との連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域から信頼される学校づくり	学校評価アンケートにおける各項目の満足度を80%以上にする。	「学校は保護者・地域と連携し、教育活動に取り組んでいる」92.2%。「教職員は熱心に教育にあたっている」91.2%。	開かれた学校づくり協議会主催の行事、地域行事で地域の方に支えていただきながら生徒が活動できた。そしてその様子を学校だより等で広報できた。生徒が主体的に地域の中で活動を考え、取り組めるようになる、もっと成長が期待できる。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携	小学校との年間6回の合同研修会や新学習指導要領に関する研修会などを開催する。	生徒の学力向上、健全育成に役立つ内容とする。	小学校との合同研修会を年7回実施した。内容は教科に関する研修を6回、道徳に関する研修を1回である。小学校のサマースクールでの学習ボランティア活動に20名が参加した。	今年度から教科ごとの分科会を設け、小中の接続に関する協議ができるようになったが、まだ十分とは言えない。	○
家庭との連携	学校評価アンケート関連項目で肯定的評価80%以上を目指す。	月1回発行する学校だよりやホームページをとおして学校の情報を細かく発信し、保護者と教員の信頼関係を強固にする。	「学校は経営方針や教育活動を保護者会、学校・学年だより等で伝えている」96.1%。「保護者は子どものことで教職員に気軽に相談できる」81.4%	学校だよりやホームページ、学年だより、保健だより等をとおして学校の情報を細かく発信した。教職員に相談できる場として年3回の三	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
				者面談、電話による連絡を随時行っている。保護者からの相談等を真摯に受け止める姿勢をさらに徹底する。	
地域との連携・協力	地域行事に年1回以上参加する生徒、教員が6割以上をめざす。	六中マルシェ、地域運動会、荒川ウォーク、住区まつりへの参加を呼びかける。	地域行事に年1回以上参加する生徒、教員が7割以上であった。「生徒は地域行事、六中マルシェ、町会運動会などでボランティア活動に活躍している」94.7%	地域行事に多くの生徒が参加し、地域の方から直接ご指導いただいた。生徒が自主的に活動に参加する姿勢をさらに育成することで、地域との連携を深めていく。	◎

### 重点的な取組事項－3 生徒の健全育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全生徒が安心して生活し、自らの成長を実感できる学校にする。	思いやりの心をもって生活させることで、いじめ・不登校の防止に努め、全員が気持ちよく生活できる学校にする。また様々なことに挑戦させることで能力を伸ばさせる。	「学校が好き」な生徒は77.8%であり、昨年度に比べ3.8%上昇した。特に3年は昨年度より5.3%高くなっている。 年間60件を超えるいじめの訴えがあったが、早期発見早期解決に向けて努力をすることで、短期間で解決できている。不登校も昨年度に比べ10%程度減っている。	毎週の校内委員会での検討をもとに個々の生徒への指導方針を決めることを続ける。 QU調査を活用した学級経営ができるよう研修を計画する必要がある。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の徹底	登校時間、チャイム着席を守れる落ち着いた学校の実現を図る。	生活委員によるあいさつ運動やチャイム着席の点検をとおして時間を守った生活ができるようにする。	遅刻ゼロ、チャイム着席を守れる落ち着いた学校の実現を継続できている。	時間を守れる落ち着いた学校生活が実現できている。今後も継続する。	◎
道徳教育の推進	教科化を見据え、各学年で検討した共通の指導計画での道徳授業を年2回実施する。	道徳教育推進教師を中心とした組織体制のもとに、各学年で指導案を検討し、「読む道徳」から、「考え、議論する道徳」を目指す。	各学年で検討した共通の指導計画での道徳授業を年1回実施した。 連携小学校と合同で道徳に関する研修会を1回、評価について校内研修を1回実施した。	授業は実施できた。新学習指導要領の理解、評価に関する研修は継続する必要がある。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ、不登校への対策	年間30日以上の長期欠席者数の昨年度比10%減といじめの根絶を目指す。	家庭はもちろん、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談センター等との連携を図る。 いじめアンケートを毎月行い、生徒の心の声を丁寧にキャッチする。	年間30日以上の長期欠席者数の昨年度比10%減を達成した。またいじめの訴えには迅速に対応、解決できている。	教職員だけでなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談センターなどの外部機関と連携することで、本人、保護者を支え、課題を解決できるようになってきた。今後もどのような外部機関があるかをはじめとして研修を進める。	◎

### 3. 学校活動全般について

- 落ち着いた学習環境の中で、指導熱心な教師とまじめに努力する生徒によって、基礎学力の定着ができるようになってきた。また授業中に考える場面、話し合う場面、発表する場面を設定することによって、新学習指導要領で求められている力について付けられるよう授業改善を進めている。
- 運動会や文化祭をはじめとした学校行事は、保護者・地域の方から高い評価を得ている。また練習や準備をとおして、自己の課題に挑戦する姿勢を育むと共に、互いの良いところを認め合うことで集団を高めている。
- 不登校、いじめ等の課題については、校内委員会で組織的に対応し、必要に応じて外部機関との連携をすすめている。常に家庭と連携・協力しながら、一人ひとりの生徒の支援をしていく。
- 部活動は活発に行われており、ブロック大会、都大会、全国大会にも出場している。また試合やコンクールの結果だけでなく、日々の練習の中で自らを磨くことに重点をおいて指導している。さらに学習活動、係・委員会活動がきちんとできる者が部活動に参加できることを徹底して指導していることで、課題を提出してから部活動に取り組むことが浸透している。
- 特別支援学級を設置し、全校生徒と一緒に学校生活を送ることで、共生社会への理解を深めることができている。

## 「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立第六中学校 学校長 柏木 圭子

		アクションプラン	達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉	具体的な取り組み内容 〈誰が、何を、どのように〉	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○ △●)
1	新規または継続・改善	「授業が好き」増加作戦	「授業が楽しい」肯定的回答80% ・「話し合い、発表が好きだ」70% ・「勉強が好きだ」50%以上	【指導体制】全教科、全教員（担任・副担任） 【取組内容・ねらい】 ・生徒が主体的に学ぶ授業に改善を図り、授業が好きといえる教科を増やす。 「勉強が好きだ」肯定的回答43%、「授業は楽しい」69%、「教科の勉強が好き」5科平均62.5%「授業で話し合い、発表が好き」55.0%（12月） 【授業改善のポイント】 ・基本的知識・技能の定着を図りつつ、考えたり、話し合ったり、発表したりする力を付ける授業 ・単元のねらいを分かりやすく伝える授業、ふりかえりによって何ができるようになったかが明確になる授業	「授業が楽しい」肯定的回答68.2% ・「話し合い、発表が好きだ」54.4% ・「勉強が好きだ」42.6%	・「授業は楽しい」への肯定的回答68.2%であるが、「授業は分かる」は83.5%であり、昨年度と比べ3.1%伸びている。特に3年は67.0%であり、昨年度の同じ生徒の回答から10.3%高くなっている。「教科の勉強が好き」5科平均は64.8%と昨年度に比べ2.3%高い。その中でも数学は8.1%、英語は5.4%伸びている。さらに「学校が好きだ」への肯定的回答は77.8%で昨年度から3.8%高く、特に3年は5.3%高くなっている。 ・「授業は楽しい」「勉強が好き」への肯定的回答に直接つながっていないが、左に記述した具体的な取組を各教員が行った結果、「授業は分かる」と感じる生徒たちが増えてきていると言える。 ・今後、さらに思考力・判断力・表現力を高める取組を継続することで「授業が好き」に関連する各項目の数値が上がってくると考える。	○

2	新規または継続・改善	朝学習 週末テスト	週末テストの正答率 80%以上	<p>【指導体制】全教員（担任・副担任）</p> <p>【ねらい】「書くこと」をとおして集中力を高める。朝学習の振り返りをして基礎的知識と技能の定着を図る。</p> <p>【取組内容】計画的に漢字、計算問題、英単語など5教科の基礎的なドリル学習を行う。週末テストで朝学習のまとめテストを行い、相互採点させる。</p> <p>【使用教材】生活ノート、校内作成のワークシート、校内作成のテスト</p>	1、2年生は常に80%を超えている。3年生は65%程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週末に行う週末テストが定着している。</li> <li>・基礎的な問題の復習をさせることによって定着を図ることを目的としているため、1、2年生ははじめに取り組んでおり、正答率が高い。3年生は受験に向けての個々のニーズに合わないと思われる生徒が多く、なかなか正答率が上がらない。</li> <li>・生徒のニーズに合った内容の見直しを行う。</li> </ul>	○
3	新規または継続・改善	放課後補充教室	通過率アップ	<p>【指導体制】全教員（担任・副担任）＋学習支援ボランティア</p> <p>【取組内容・ねらい】つまずきのある生徒を中心にできる限りの個別指導とし、学力、学習意欲の向上を目指す。</p> <p>8月までに前学年の内容、9月から当該学年の内容を取り扱う。</p> <p>【使用教材】校内作成のワークシート</p> <p>【改善点】学生ボランティアの拡大、授業内容との連結</p>	通過率については前述のとおり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者を固定する方法から、単元等を示し、理解が十分でない生徒を対象者にする方法に変更した。このことで、授業内容のわからないことをわからないままにすることを防ぐとともに、生徒の学習意欲に応えることができるようになってきている。</li> <li>・全教員とともに学習ボランティアを活用することできめ細かい指導ができています。</li> </ul>	△
4	新規または継続・改善	サマースクール	受講生全員が、効果検証テストで90%の正答率	<p>【指導体制】各教科担任を中心</p> <p>【ねらい】区学力調査の結果を基に前学年の既習内容の復習に重点をおき、各自のつまずきの解消を図る。</p> <p>【使用教材】校内作成のワークシート、市販の教材</p>	学習内容を事前に知らせ、希望する内容の日程で申し込む形式にしたため、全体をとおしての効果検証の数値は出していない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で希望者を対象に実施した。基礎的な内容に重点をおき、復習を行ったことで、つまずきの解消ができた。</li> <li>・基礎的な内容に限るのではなく、中位、上位の生徒の学力を伸ばす内容も検討する。</li> </ul>	△

5	新規または継続・改善	学習コンテンツ	達成率8割以上の生徒が60%	<p>【指導体制】各教科担任を中心に全教員</p> <p>【ねらい】中学3年間で履修すべき語彙力(国語) 計算力(数学) 4技能を支える語彙力(英語)を定着させる。</p> <p>【取り組み】3年間で履修すべき内容を学年別の課題に取り組む。</p> <p>【使用教材】校内作成の独自教材</p>	<p>国語1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> <p>数学1年 75%</p> <p>2年 66%</p> <p>3年 65%</p> <p>英語1年 70%</p> <p>2年 24%</p> <p>3年 40%</p>	<p>・昨年度から学年ごと、教科ごとに取り組んでいた漢字、計算、英単語コンテストを、今年度から全校の取組としたことで、生徒の意識を向上させることができた。</p> <p>・学年・教科によって偏りがあるため、再度、生徒に意欲をもたせる工夫が必要である。</p>	○
6	新規または継続・改善	土曜学習講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者アンケートの満足度80%</li> <li>・受講者の平均点+20%</li> <li>・各自の目標検定合格率80%以上</li> </ul>	<p>【指導体制】都非常勤講師+民間講師+ボランティア</p> <p>【ねらい】授業内容の復習を基盤としながら、問題の解答力を身に付ける。また、数学・英語検定において、各自が目標とする級の取得を目指す。</p> <p>【使用教材】市販の問題集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者アンケートは未実施</li> <li>・対面での聴き取りでは満足度は高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は意欲的に学習に取り組み、成果をあげている。</li> <li>・受講対象者を習熟度が「やや速い、普通」生徒も対象に広げ、発展的な問題にも挑戦させる。</li> <li>・生徒に強く呼びかけ、受講者の増加を図る。</li> </ul>	○
7	新規または継続・改善	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各提出状況90%</li> <li>・家庭学習、週10時間の生徒40%を50%にする。</li> </ul>	<p>【指導体制】全学年、全教員</p> <p>【ねらい】主体的な学習態度の形成(学習のやり方指導)</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習ガイドブック」を新入生保護者説明会で配布、説明する。1年入学オリエンテーションで「ガイドブック」の内容を指導する。週末などを中心に計画的に宿題や課題を出す。</li> <li>・「自主学習ノート」の毎日の提出時の指導をする。</li> <li>・考査前期間の「学習計画表」の作成、提出</li> <li>・学校だより等を利用し、家庭へ啓発する。</li> <li>・英語小テスト→Bノート(英語家庭学習ノート)</li> </ul> <p>【使用教材】「家庭学習ガイドブック」(独自指導資料)、各教科による教材、課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートでは「提出物を提出している」生徒は84.3%</li> <li>・平日の家庭学習1日1時間以上43.9%(2時間以上11.7%、1時間以上2時間未満32.2%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「提出物を提出している」への肯定的回答は84.3%だが、「宿題をやっている」生徒は87.4%である。また期限までに提出できなかった生徒は、各教科担任が放課後等に指導し、取りこませることで、ほぼ全員が提出できている。</li> <li>・「家庭学習で何をどのように勉強すればよいか分かるか」への肯定的回答は1年74.0%、2年66.0%、3年57.0%、学校全体65.3%である。今年度から「家庭学習ガイドブック」を全生徒に配布し自主的・計画的な家庭学習ができるよう指導している。入学時に指導できた1年生はその成果がであると考え。家庭学習の習慣を付けるために、宿題を計画的に出しているが、自分にとって必要な内容について、自分で考え、学習に取り組める姿勢と能力を身に付けられるよう指導を継続する必要がある。</li> </ul>	△